

平成二六年度文化庁文化芸術振興費補助金
文化遺産を活かした地域活性化事業

平方上宿の祇園祭

どろいんぎよ



上尾市無形民俗文化財活用活性化実行委員会

平方上宿の祇園祭

どろいんきよ

序

上尾市の西部に位置する平方上宿地区に「どろいんきよ」と呼ばれる古くから伝わる祭りがあります。どろいんきよとは、毎年七月の下旬、この地に鎮座する八枝神社の夏祭り・祇園祭で行われる行事で「隠居神輿」と呼ばれる白木の神輿を、あらかじめ水を張った民家の庭などで地面に転がし、泥だらけにするものです。悪疫退散を願い、担ぎ手も神輿も泥だらけになることで有名なこの伝統行事は、他に類例のないものとして、平成二十三年には県指定無形民俗文化財に指定されています。

昭和四八年、上宿地区の若い衆を中心に地域の人々の努力によって本格的に復活した「どろいんきよ」は、現在に至るまで継続されています。しかし、伝承者の高齢化や参加者の減少など、祭りを取り巻く環境は決して良好とは言えません。

今回、本委員会では、文化庁の補助金を受けて、映像記録作成事業を実施しました。本書はその解説書です。この事業で制作した映像記録と共に、本書を御活用いただき、無形民俗文化財としての「平方祇園祭のどろいんきよ行事」について理解を深め、次世代へ継承していく一助となるとともに、地域の文化遺産への関心を高め、地域の活性化につながることを期待しています。

最後に、本事業を実施するにあたり、御協力いただきました平方上宿地区の皆様や関係各位に厚く感謝を申し上げます。

上尾市無形民俗文化財活用活性化実行委員会

目次

序

第一章 概要 だろいんきよとその歴史

- (1) 平方上宿の立地と環境……………2
- (2) だろいんきよの歴史的背景……………4

第二章 組織 だろいんきよを支える人々

- (1) 祭りの組織……………5
- (2) 若衆頭と当番の役割……………6

第三章 準備 だろいんきよに至るまで

- (1) フセギ……………9
- (2) 祭り願い……………10
- (3) 実行委員会……………11
- (4) 各種団体との打合せとそれぞれの活動……………11
- (5) 班長会議……………14
- (6) お飯屋……………14
- (7) 祭りの準備……………15

第四章 当日 だろいんきよの実際

- (8) 神輿飾り（神輿と隠居神輿）……………17
- (9) 四町内祭り……………20
- (10) 前夜祭……………22

第五章 翌日 後片付け

- (1) 朝っぱやし……………23
- (2) 当日準備……………23
- (3) 当番のお被い……………25
- (4) 祭典・お山出し……………26
- (5) 神輿の渡御とだろいんきよ……………26
- (6) ひよつとこ踊りと川入り……………34
- (7) 山車……………35
- (8) お山納め……………36
- (1) 後片付け……………37
- (2) 神輿洗いと結び目……………38
- (3) 反省会……………39



平方上宿の祇園祭

どろいんきよ



平方河岸空中写真（近現代）



平方河岸跡

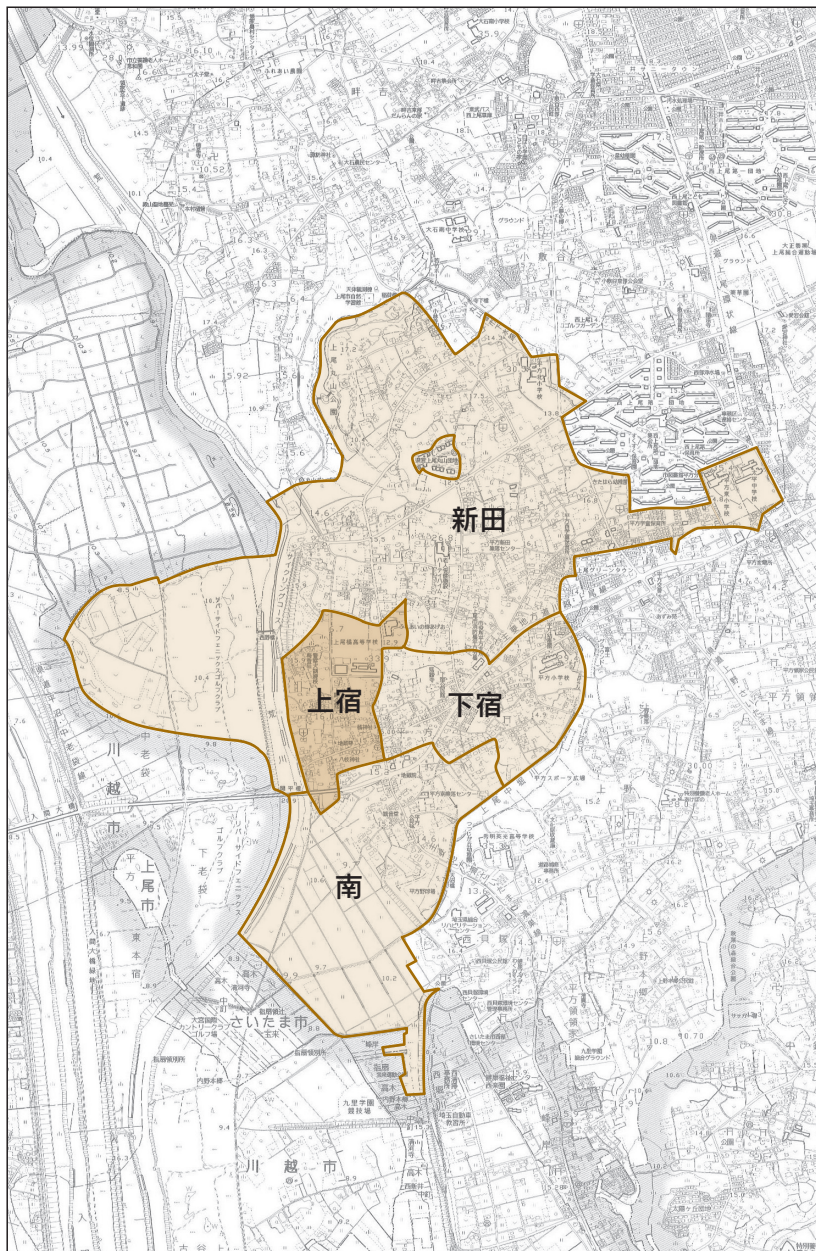
第一章 概要 どろいんきよとその歴史

（１）平方上宿の立地と環境

上尾市大字平方は、中山道の上尾宿から城下町・川越に向かう、古くからの街道沿いに立地する。この街道は大宮台地上を通過して、荒川・入間川を渡り、川越に向かうが、平方はこの荒川の大宮台地際に位置する。現在、荒川は開平橋で渡るが、江戸時代には船渡で渡河していた。また、江戸時代初頭から、平方河岸が整備され、近郷から江戸に年貢米を含む様々な荷物が集まり賑わったといわれる。『新編武蔵風土記稿』によると、江戸時代には「平方宿」と呼ばれ、現在の埼玉葛地方から上尾・桶川を通じて川越・多摩地域に抜ける重要な運送の中継地点となっていたという。

大字平方は大きく南・下宿・上宿・新田の四地区に分かれる。このうち下宿・上宿は、川越に向かう街道沿いの集落で、街並みを形成し、特に平方河岸が賑わいを見せた大正時代までは、活況を呈していた。一方、南・新田は、畑作主体の農村であった。

平方のどろいんきよの行われる平方上宿は、この街道の荒川に接する地



平方四地区の位置



八枝神社

域であり、平方河岸に関係する家も多かったという。

(2) どろいんきよの歴史的背景

どろいんきよは、上尾市大字平方の上宿地区に鎮座する八枝神社の祇園祭の中で行われる行事である。八枝神社は、江戸時代には牛頭天王社と呼ばれていたが、明治初年に改称し現在に至っている。明治初年に著された『武蔵国郡村誌』では、八枝神社の祭日を七月一四日としている。

明治時代、八枝神社の祇園祭は、現在の大字平方の範囲にあたる、南・下宿・上宿・新田の四地区合同で行われてきた。神輿がこの四地区を巡回し、その中でどろいんきよが行われてきた。「八枝神社日記」の明治四二年六月二四日の項には、「隠居興」の修繕に関する記述があり、このころには既にどろいんきよが行われていたことが推察される。

祇園祭で、どろいんきよを含む神輿渡御を行うには、四地区の合意が必要であった。合意が得られた年のみ神輿の渡御ができたのである。大正一二年にどろいんきよを含む神輿渡御を実施したが、以降、これを最後に四地区合同での神輿渡御は行われなくなった。その後、祇園祭は四地区そ



会議の様子

れぞれで神輿渡御が行われ、どろいんきょも各地区で小規模に行われる程度であった。

こうした中、上宿地区では、昭和四八年に祇園祭の中でどろいんきょを本格的に復活した。どろいんきょは、昭和五七年には上尾市指定無形民俗文化財、平成二三年には「平方祇園祭のどろいんきょ行事」として埼玉県指定無形民俗文化財に指定され、現在に至っている。

第二章 組織 どろいんきょを支える人々

(1) 祭りの組織

(上宿の組織)

上宿の役員には、区の代表者である区長、区長を補佐する区長代理、財務を担当する会計などがあり、この三つの役員は「区三役」と呼ばれている。ムラ組織である上宿の内部には、さらに近隣組織の「班」が存在し、一班から十班までであるが、現在九班は欠番となっている。以前は「クミア



若衆頭の活動：神酒所回り



若衆頭の活動：会議の司会進行

イ」といい、主として冠婚葬祭などの時に機能するものであった。

（祭りの組織）

現在の祭りは、上宿全体の祭りなので、区の役員や各種団体の役員などが中心となって実行委員会を組織して主催している。実行委員長は区長が就任するのが通例で、委員は、区長代理や会計、保存会会長、神社責任役員、氏子総代、班長、若衆頭、当番、囃子連、愛育班、子どもの会などで構成される。

（2）若衆頭と当番の役割

（若衆頭）

実際の祭りを中心になって運営するのが若衆頭である。若衆頭は四人で、任期は二年である。任期二年目の年に次期の若衆頭を決めて、三月のフセギで新しい若衆頭が紹介される。新しく紹介された若衆頭は、一年間先輩の若衆頭と共に仕事をし、翌年から若衆頭として二年間の任期に入る。このため、見習い期間を含めると三年間、祭りの運営に関わることになる。

若衆頭の主な職務は、どろいんきよが行われる祇園祭の実施であり、そ



若衆頭の活動：祭り当日



若衆頭の活動：市内イベントでの案内

の準備のために三月から様々な仕事を行う。内容は、どろいんきょ当日までの各種関連行事・会合の司会進行や、神酒所となる家への挨拶回りなど、多岐に及んでいる。若衆頭の仕事には、おおよそ、次のようなものがある。

三月…フセギ行事出席、当番との打合せ

四月…上宿区総会出席、区三役・宮司との打合せ、班長会議出席

五月…祭り願い出席、実行委員会出席、チラシデザイン打合せ、提灯と幟旗の準備、提灯の電線仕分け・配線の確認、神酒所回り

六月…各種団体との打合せ、神酒所回り、囃子連打合せ、チラシ配り、告知回覧の作成、班長会議出席、子どもの会打合せ、寄付金願依頼の配布、ポスター貼り

七月…本部設営、お仮屋出席、四町内祭り挨拶回り、どろいんきょ説明会、流し踊りりハーサル、前夜祭出席、案内板の設置、本部の準備、各班用の用具の準備、どろいんきょ祭り当日、後片付け

八月…反省会



当番の活動

以上のように、若衆頭は、祭りが始まる四か月前から、ほぼ毎週土・日曜日を利用して準備を行い、関連行事や各種会合に出席し、祭りに向けて活動している。

(当番)

当番は、上宿の年間行事の準備や世話をする役員で、祭りにおいては神事に関わる準備や世話をする。当番は二人一組で四人である。任期は二年で、一年目が新当番、二年目が旧当番という。新当番が主な当番であり、二年目の旧当番は新当番の指導役的立場にある。若衆頭同様に、三月のフセギで新しい当番と交代される。なお、フセギなどの年間行事においては、当番が取り仕切る。当番には若衆頭よりも若年者が選ばれるようになっており、当番を務め上げないと区長や若衆頭にはなれないとされている。

当番の主な仕事で神事に関わるものとしては、三月のフセギや祭り当日の各戸へのお祓いや、どろいんきよをする際の先導役である幣束持ちなどがある。また、当番は、神事に関わる職務のほか、祭りに向けて若衆頭と共に各種準備を行い、実行委員会や祭り願いなどの会合に出席する。



当番によるお祓い



上宿公民館に納められたお獅子様

第三章 準備 どろいんきょに至るまで

(1) フセギ

フセギとは、悪疫退散を願う行事の一つで、春祈祷とも呼ばれる。平方では、八枝神社から「お獅子様」と呼ばれる獅子頭の入った神輿を借りて行う。南・下宿・上宿・新田の四地区の家々を回る行事であったが、現在では四地区別々に行われ、神輿が全戸を回ることもなくなった。上宿では、お獅子様を上宿公民館に納め、参拝する形をとっている。

前年度の新当番である旧当番は、八枝神社宮司から町内に配る「お札」と「お祓い」を受け取り、氏子の各戸をお祓いをして回る。一人が「お祓い（大幣）」を、もう一人がお札箱を持つ。各家では、オヒネリを用意しておき、当番に渡す。お札を渡し、玄関に出てきた者の頭の上でお祓いをして、次の家へ向かう。

お祓いの巡回から戻った当番を迎え、役員の挨拶と当番の交代、若衆頭の挨拶などが執り行われ、その後直会となる。フセギ行事の司会進行は、なまらい当番の仕事である。また、囃子連による囃子の演奏が行われることもある。



祭り願い



神社に戻るお獅子様

直会后、前年度の旧当番がお獅子様を担ぎ、お祓いを振る新年度の旧当番を先頭に八枝神社に向かう。お獅子様を神社に納め、手締めをして終了となる。

(2) 祭り願い

祭り願いの本来の意味は、八枝神社宮司と神社役員、平方四地区の総代や当番、若衆頭などが出席して、神社に夏祭りの実施を願い出ることである。ここで四地区の祭りの日程が決定する。現在では、ほぼ決定されている日程や新役員について確認する場となっており、議題の終了後は直会となる。

現在では上宿、南、下宿、新田の平方四地区の他にも、平方地区の神社総代が出席し、それぞれの地区の祭りの日程も確認している。

なお、平成二六年度の夏祭りについては、南・下宿・新田は七月一三日の日曜日、上宿のどろいんきよ祭りは七月二〇日の日曜日に決定された。近年、上宿のどろいんきよは七月の海の日の前日の日曜日に、南・下宿・新田の夏祭りはどろいんきよの一週間前の日曜日に行うようになってい



実行委員会

(3) 実行委員会

現在、どろいんきょは上宿地区全体の祭りとなっているため、区役員や各種団体などが実行委員会を組織して主催している。実行委員会の構成員は、区長などの区三役、どろいんきょ保存会会長、八枝神社宮司、当番、若衆頭、子どもの会、愛育班、囃子連や上宿の相談役などである。なお、実行委員長には区長が就任するようになっている。

五月の中頃に開かれる実行委員会では、司会進行を若衆頭が行い、実行委員会役員の選出、若衆頭・当番の挨拶や祭りの予算や日程等について話し合いが行われる。

(4) 各種団体との打合せとそれぞれの活動

始めに、祭りまでの予定について、各種団体の代表者と若衆頭が打合せをし、その後に、各種団体それぞれに会議を開いている。代表的な団体には、囃子連（市指定文化財名称…武州平方箕輪囃子連）や子どもの会、愛育班などがある。



囃子連（前夜祭）



若衆頭との打合せ

（囃子連）

囃子の練習日確認やお仮屋・飾り付けの日程確認などが話し合われる。また、平成二六年度にはタカウマの屋根修理も併せて行われた。タカウマとは、木杵の一方の側に大太鼓、もう一方に小太鼓を付けたもので、脚部の車で移動しながらお囃子の演奏が出来るものである。

（子どもの会）

子ども囃子の練習日や練習時間、子ども神輿の巡行路や囃子屋台に子どもを乗せる体制についてなどを話し合う。また、どろんいきよに参加できる学年の確認や、祭り当日の集合時間や場所、神輿に付き添う役などについても相談される。

（愛育班）

愛育班が中心となり開かれる女性の集会では、流し踊りの練習が行われる。流し踊りとは、どろんいきよの途中に、踊り手が大通りを八枝神社の前から橘神社の前まで一列になって踊り進むものである。

打合せでは、祭りに向けての準備の日程確認、流し踊りリーダー選出と選曲、宣伝カー担当者選出などが話し合われる。また、踊りの先生紹介の



流し踊りリハーサル



子どもの会（会議）

後、選曲を発表し、流し踊り練習日の確認・連絡をして、実際に流し踊りの練習も行われる。

流し踊りの練習は、宣伝カーによる告知をして事前の周知を図る。上宿公民館での練習や、大通りを本番と同じように踊るリハーサルも行っている。



お飯屋での囃子演奏



班長会議

(5) 班長会議

各班からの寄付金の受付をし、会計報告を行う。また、祭り当日の配布物の確認や、飾り神輿の担ぎ手募集などの話し合いを行う。第二章で述べたとおり、上宿の近隣組織は班から成り立つ。この先の本部設営や神酒所の準備など、班単位で仕事をするのが多く、班は祭りの重要な役割を果たしている。

(6) お飯屋

七月七日はお飯屋の日である。本来は「飯屋」を作り、祭神を神輿に移して、お飯屋に遷座するものであった。この日に神輿の準備や幟竿立てなどを行っていたが、現在、祭りの準備は、南・下宿・新田の祭りの一週間前、上宿の祭りの二週間前の日曜日に行っている。

現在では、夕方から囃子連が「お飯屋」といって、八枝神社の神楽殿で囃子の演奏を行う。飲食をしつつ、休みながら演奏し、区や神社の役員、若衆頭や当番などが挨拶に来る。以前は、この日から夏祭りの前夜まで、毎晩行ったといい、今ではこの日から囃子連・子ども囃子の囃子の練習



本部設営



子ども囃子の練習

が始まる。なお、囃子の曲目は「ニンバ（ひよつとこ）」「ヤタイ（屋台）」である。

（軒提灯）

かつては、お飯屋の日から祭りの日まで、各家では軒先に「御祭礼」と書かれた軒提灯をつるしていた。今でもいくつかの軒先では、軒提灯をつるしている。

（7）祭りの準備

本来、七月七日のお飯屋の日に行われていた祭りの準備は、南・下宿・新田の祭りの一週間前、上宿の祭りの二週間前に当たる日曜日に行っている。準備には、隠居神輿や大神輿、子ども神輿の飾り付け、町内の提灯飾り付け、本部設営、荒川周辺の草刈り、囃子屋台の組み立てなどがある。なお、現在は幟を立てていないため、幟竿立ても行わない。

（本部設営）

祭りの本部は仮設の小屋で、八枝神社の境内、外から鳥居をくぐり、入ってすぐの左側に設営する。かつては、八枝神社の北側にある地藏堂前に設



草刈り



提灯飾り付け

営していた。

ここは祭りの受付や接待に利用される。祭り当日の早朝には、囃子連による朝つばやしが本部を利用して行われる。本部の隣には、接待小屋が設営される。

（提灯の飾り付け）

上宿公民館に用意した提灯を、上宿地区内の主な道路沿いに各班で分担して飾り付ける。八枝神社境内や夕方にとろいんきよをする神酒所などには、照明も取り付けられる。

（荒川周辺の草刈り）

本来の行事ではないが、通例で行われている行事として、五班で行われる二回目のどろいんきよの最中、隠居神輿を担ぎ出し荒川に入ることがある。その準備のために、川に入る場所と川から上がってくる場所の草刈り、放水器を使った河床の清掃を行う。例年、自警消防団が担当する。

（囃子連屋台準備）

囃子連は、お囃子の演奏は神輿の渡御の際にはタカウマを使用するが、流し踊りや山車の引き回しの際には、屋台を使用する。準備の日には、囃



飾り付けられた神輿



囃子屋台準備

子連が開平橋の下の広場を利用して組み立てる。屋台は牛車を改造したもので、柱や屋根、飾りを取り付ける。

(8) 神輿飾り (神輿と隠居神輿)

現在、上宿の夏祭りでは、神輿・隠居神輿・子ども神輿・大神輿の四基の神輿が出ている。このうち、大神輿は飾られて安置され御幣を納められるが、渡御されることはなくなっている。かつては、この大神輿を担ぎ出して渡御を行っていたが、大正十二年の夏祭りの際に大破して以来、祭りの神輿の中心は大神輿よりも一回り小さいものに移った。さらに復活後は、修理されるものの、人手不足によりお山出しとお山納めの時だけ担ぐようになり、現在では担ぎ出されることもなく、祭りの最中は祭器庫脇のテントの下に安置されている。

祭り準備の日に、祭器庫から子ども神輿と大神輿を出して、飾り付けをする。なお、子ども神輿は、渡御の途中で抜けることになっている。

実際に上宿が渡御で使用する神輿は、例年、中型の神輿の中で一番大きいものとされており、四町内祭りから神輿が帰ってくるのを待ち、神輿飾



隠居神輿



縛る前の隠居神輿



隠居神輿を解体して洗う

りとなる。新・旧の当番が、八枝神社の神楽殿で宮司や相談役の指導を受けながら神輿を飾り付ける。飾り終わると、神楽殿にそのまま納める。

（隠居神輿）

隠居神輿の準備も、祭り準備の日に行く。隠居神輿は、御幣を納めるヤカタ、エボシの付いた屋根、担ぎ棒のトンボにより構成され、それぞれが



巻き上げ詳細図



中央部を締める



隠居神輿の周囲を縛る



八の字に巻き上げる

分かれて、八枝神社の祭器庫に保存されている。これらを出して、境内で水洗いをする。隠居神輿を水洗いしてから、縛り始める。隠居神輿の神輿縛りは、三つの部分が分解しないように縄で縛りあげる作業であり、技術を要する。そのため、数人しか作業を継承する人間はいない。近年では、一〇代〜二〇代の若年層の参加があり、指導を受けて技術習得に励んでいる。

始めに、長さ約三〇m（二〇尋）の縄を四本用意して、屋根とヤカタ、トンボを四隅から縛り付ける。ヤカタとトンボはそれぞれ一つの角に対し、一本の縄で縛る。次に、屋根とトンボの部分五重に巻く。このため、屋根とその下の担ぎ棒にはちょうど縄が五本入る溝が彫られている。五重に巻いた縄の中心



四町内祭り（祭典）

付近を締め上げ、中心部分から上下に「八の字」に巻いていく。カナヅチで叩いて間を詰めながら作業を進め、おおよそ上下とも八の字が一三〇一五回作れるという。最後にヤカタの上下を二本の縄で二重に巻いて、固定する。縛り終わった隠居神輿は、本来であればお仮屋に納めるが、現在は祭器庫に納め、四町内祭りの日に飾り付ける神輿ともに、上宿の祭りの一週間前の日曜日にお仮屋に納める。

（９）四町内祭り

四町内祭りは、平方四地区の祭りで、天王様とも呼ばれる。本来、四地区が合同で行っていた祭りが、戦後に別々に開催するようになり、現在では上宿の祭りが南・下宿・新田の祭りの翌週に行われるようになった。なお、上宿も祭典はこの日に行っているため、祭典と神輿の渡御が別々の日に行われるようになっていいる。

なお、現在では、四町内祭り神輿くじ引きと神輿飾りは、上宿地区の祭り準備の日と同じ日に行っている。四町内祭りで担ぐ神輿を、南・下宿・新田の三地区の代表者がくじ引き（抽選）をして決定する。くじ引きの後



四町内祭り（下宿）



四町内祭り（南）

は、各地区の神社総代や役員が神輿を清掃し、飾り付けをする。全ての神輿飾りが終わると、神輿を神楽殿に納める。

四町内祭り当日は、平方四地区の氏子総代や若い衆が八枝神社に集まり、祭典料を納める。その後、神輿が納めされた神楽殿の前で祭典が執り行われ、南・下宿・新田に神輿の渡御となる。

（南地区）

午前中に八枝神社から借りた神輿を平方南集落センターに安置し、午後天王講・直会となる。直会の後、神輿を八枝神社に返す。

（下宿地区）

八枝神社から下宿公民館への途中、上宿地区との境である橘神社付近から囃子連の屋台が同行し、囃子を演奏する。下宿公民館に神輿を安置すると、囃子屋台が地区内を巡行する。囃子屋台が公民館に戻ると、直会となる。その後、神輿を八枝神社に返す。なお、囃子の曲目は「カマクラ（鎌倉）」「コモリウタ（子守唄）」「ショウデン（昇殿）」「ヤタイ（屋台）」などがある。

（新田地区）

八枝神社から借りた神輿を平方新田集落センターに安置する。移動の途



四町内祭り（新田）

中、囃子連がタカアシで囃子を演奏しながら進む。タカアシは、上宿のタカウマによく似ていて、移動しながら囃子の演奏ができるものである。また、囃子連は神輿を集落センターに安置した後、トラックにタカアシを載せ、地区内を演奏しながら回る。囃子連が戻ると天王様・直会となる。その後、神輿を八枝神社に返す。なお、囃子の曲目は、「ヤタイ（屋台）」「ニンバ（ひよつとこ）」「カゾエウタ（数え歌）」「カマクラ（鎌倉）」などがあり、特に決まりは設けられていない。

（10）前夜祭

前夜祭は、囃子連を中心に、どろいんきよの前日の夜に開催される。どろいんきよの中心的な役割である若衆頭や当番、区役員なども参加し、飲食が振る舞われ、囃子連によるお囃子の演奏が行われる。囃子の曲目は、特に決まっておらず、演奏したいものを行う。

また同じ日に、八枝神社の境内では、子どもの会主催の飲食会が開催されている。



小麦まんじゅう



朝っぱやし

第四章 当日 どろいんきょの実際

(1) 朝っぱやし

祭り当日の午前六時、囃子連が八枝神社に集まり、祭り本部で朝っぱやしを演奏する。宮司の太鼓と花火の音を台図にお囃子の演奏が開始される。なお、囃子は「ヤタイ（屋台）」が演奏される。

(2) 当日準備

(小麦まんじゅう)

祭りの当日には、各家で小麦まんじゅうを作って食べるものであった。作った小麦まんじゅうは、神仏に供え、残りは近所の人々に配る。

(神酒所)

神酒所とは、神輿の渡御の途中に立ち寄り、休憩をする場であり、班単位に設置される。この神酒所の中で、実施可能な場所を選び、どろいんきょが行われている。

朝から各班の有志がそれぞれ神酒所の設営を行う。始めに注連縄をない、



榊が付いた隠居神輿



神酒所の接待料理

次に神酒所の入り口に二本竹を立て、その間に注連縄を張る。どろいんきよが行われる神酒所では、水を撒いて会場を整備し、撒くための水を大きな桶やドラム缶に貯める。また、神輿や隠居神輿を置くための台として、白を用意する。現在では木杵やビールケースなどを使用する場合もある。神酒所の設営と同時に、朝から各班の女性有志が中心となり、神酒所で振る舞う接待料理の準備をする。

（隠居神輿）

当番が中心になり、隠居神輿の飾り付けをする。縛った縄と神輿の隙間に榊を挿し込んで飾り付け、御神体となる御幣をヤカタに納める。また、この時に大神輿の御幣も納める。

（囃子連屋台準備）

囃子連が準備しておいた屋台を、提灯付けや幕を張るなどをして飾り付ける。飾り付けた後は、通りまで運び、準備を終える。また、囃子連は上宿公民館でタカウマを組み立てる。

（本部接待・祭典準備）

祭り当日の午前九時、実行委員会の本部接待担当者が、本部にて祭りの



オヒネリ



当番によるお祓い

受付を開始する。また、神楽殿前では、お山出しの祭典へ向けて幣束（大幣）、神饌が供えられる。

（タカウマでのお囃子）

囃子連は、お山出しの前までに、タカウマで囃子を演奏しながら、上宿公民館から八枝神社の境内に移動する。お山出しが始まるとともに囃子を再開し、隠居神輿の後を演奏しながら追う。なお、どろいんきょをしている間は、囃子の演奏が続けられる。

（3）当番のお祓い

祭り当日の午前、八枝神社でお祓いを受けた新・旧の当番が、それぞれ一人ずつ組んで、二手に分かれて上宿地区内の各戸をお祓いして回る。一人が幣束（大幣）、もう一人が賽銭箱を持つ。各戸の玄関先では、半紙に包んだオヒネリ（賽銭）をもらい、お札を渡し、お祓いをする。また、家によってはお守りとして、幣の一部をちぎっていただくこともある。

かつては、八枝神社のお獅子様を借りて一緒に回っていたが、現在は回っていない。



境内を揉む隠居神輿



神輿にとびかかる若い衆

(4) 祭典・お山出し

神輿や隠居神輿を八枝神社のお仮屋（神樂殿）から担ぎ出すことを「お山出し」といい、この時祭典が行われる。お山出しの祭典を前に、若衆頭より挨拶と新担ぎ手の紹介、提灯の配布、注意事項の説明が行われ、お浄めの御神酒をいただく。その後、関係者及び来賓は神樂殿前に整列し、お山出しの祭典となる。お山出しの祭典が終了し、挨拶や来賓紹介の後に、花火と若衆頭の合図でお山出しとなり、同時に囃子連の演奏が始まる。神輿と隠居神輿は境内を揉んで歩き、当番は幣束（大幣）を持ち神輿を先導する。神輿、隠居神輿、囃子連のタカウマの順に鳥居を出て、渡御が始まる。なお、お山出しの際の囃子の曲目は「ヤタイ（屋台）」で、移動中の囃子は「ニンバ（ひよつとこ）」や「カマクラ（鎌倉）」などが演奏される。渡御の途中、基本的には神酒所以外の家に立ち寄ることはないが、例外的にどろいんきよに貢献のあった故人の家に立ち寄ることがある。

(5) 神輿の渡御とどろいんきよ

渡御が行われている神酒所には、お山出しから四班↓五班↓六班↓七班



隠居神輿の渡御



神輿の渡御



タカウマでの囃子

↓八班↓十班↓一班↓二班↓流し踊り・山車の引廻し↓二班↓三班↓お山
納めの順に進み、このうち四班、五班、八班、一班、二班の神酒所でどろ
いんきょが行われる。

お山出しの祭典を終え、神社を出た一行は、神輿、隠居神輿、タカウマの順に神
酒所に到着する。神輿・隠居神輿を台の上に安置し、御神酒を供える。タカウ
マまでが神酒所に揃うと手締めをして休憩となり、接待料理が振る舞われる。



臼の上に安置された隠居神輿



供えられた御神酒



御神酒をかける

どろいんきよが始まる時は、若い衆が隠居神輿の周りに集まり、囃子連の演奏が始まる。当番が供えられた御神酒を隠居神輿のエボシにかけ、続けて同じ部分に参加者の一人が水をかけるのを台図に、隠居神輿を台から転げ落とし、どろいんきよが始まる。

どろいんきよの最中は当番や若衆頭、行事から転がし方の指示があり、周囲の人が水をかける。また、囃子は「ヤタイ（屋台）」が演奏される。



どろいんきょ風景



キリモミ



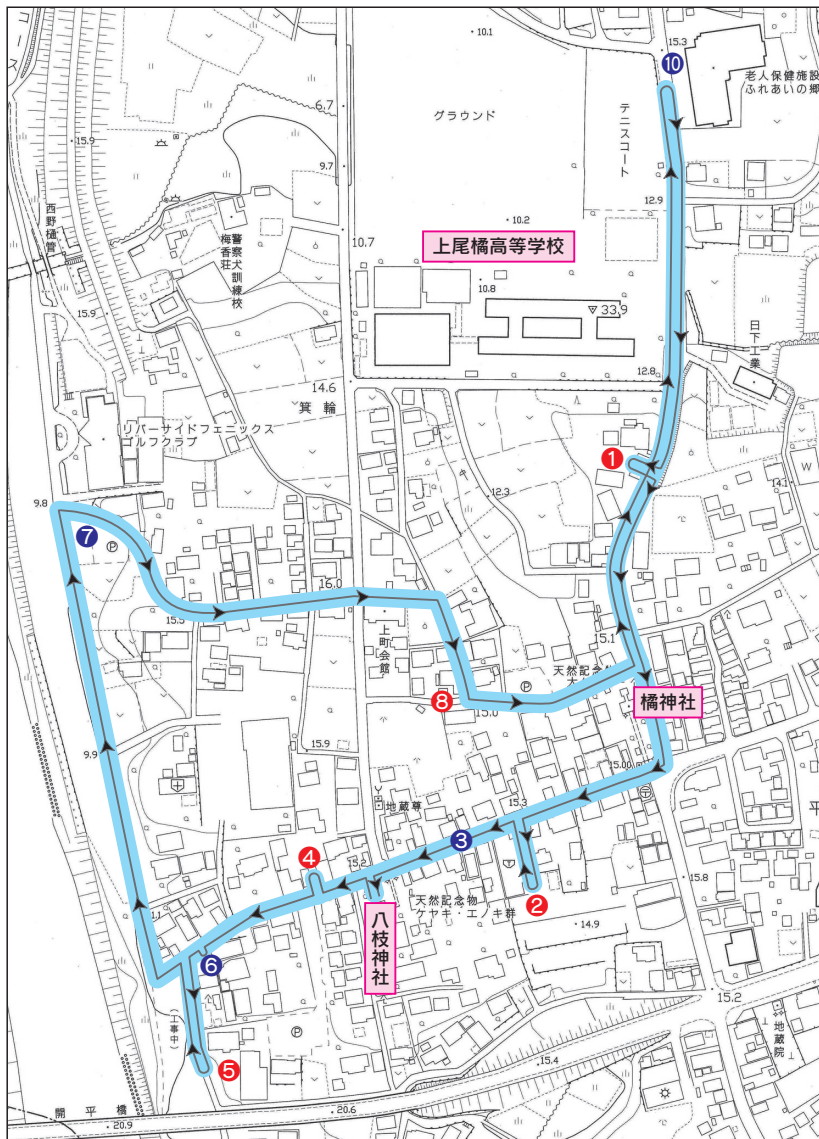
トンボガエシ (タテガエシ)

どろいんきょの転がし方には、天地を逆さまにして、ヤカタの部分を地面に置いて中心にし、トンボを押し合うようにして回転させる「キリモミ」や、トンボを地面と垂直に立てて倒す「トンボガエシ」や「タテガエシ」と呼ばれるものなどがある。またトンボガエシでは、立てて倒れる瞬間にトンボの間をくぐることもある。

どろいんきよを終える時は、当番や若衆頭から指示を出し、まず神輿が神酒所を出発する。次に、同様に当番や若衆頭からの指示でどろいんきよが終了する。以前は囃子が「ニンバ（ひよつとこ）」に変わることも、どろいんきよ終了の合図であった。現在は、どろいんきよ終了とともに、囃子の演奏も終了するようになっていいる。その後、神輿を追って、隠居神輿、タカウマと続き、次の神酒所へ向かう。

（どろいんきよを行わない神酒所）

どろいんきよを行わない神酒所では、当番の合図に従って、まず神輿が神酒所を出発し、その後に隠居神輿、タカウマと続き、次の神酒所に向かう。



現在の神輿渡御の経路と神酒所（平成26年）

●…どろいんきよを行う神酒所

●…休憩だけの神酒所

数字は班番号

(おばば)

神酒所と神酒所の間を、神輿が渡御している時、囃子連の「カマクラ（鎌倉）」や「ニンバ（ひよつとこ）」の演奏に合わせて担ぎ手が「おばば」と呼ばれる伊勢音頭を歌うところがある。これは伊勢音頭の歌い始めが「おばばな」で始まることに由来する。おばばの歌詞には、次のようなものがある。

〈伊勢音頭（おばばの歌）〉

・ おばばなー ははよおい

どこへきやろい 三升樽下げてよ（アラヨイトコシヨ）
嫁の在所へ やんでなー 孫だきによ

アリヤ ソウトモ ヤレトコセイー ヨイヤナー

アリヤリヤ アリヤコレワイセーノ コノナンデモセー

・ 伊勢はなー ははよおい

津でえもおつー 津は伊勢でーえもつよ（アラヨイトコシヨ）

尾張名古屋は やんでなー 城でもつよ

アリヤ ソウトモ ヤレトコセイー ヨイヤナー

アリヤリヤ アリヤコレワイセーノ コノナンデモセー

・ 目出たあなー ははよおい

目出たがー 三つ重なればよ（アラヨイトコシヨ）

下の目出たが やんでなー 重たかるよ

アリヤ ソウトモ ヤレトコセイー ヨイヤナー

アリヤリヤ アリヤコレワイセーノ コノナンデモセー



当番を先頭におばばを歌う

・娘なー ははよおい

十七、はちゃー させごろしごろよ (アラヨイトコシヨ)

親もさせたがる やんでなー 針仕事よ

アリヤ ソウトモ ヤレトコセイー ヨイヤナー

アリヤリヤ アリヤコレワイセーノ コノナンデモセー

・ほれたあなー ははよおい

ほれたあよー 川端柳は (アラヨイトコシヨ)

水の流れて やんでなー 根が掘れたよ

アリヤ ソウトモ ヤレトコセイー ヨイヤナー

アリヤリヤ アリヤコレワイセーノ コノナンデモセー

・いやだなー ははよおい

いやだとをー 畠の芋はよ (アラヨイトコシヨ)

かぶりふりふり やんでなー 子があーできたよ

アリヤ ソウトモ ヤレトコセイー ヨイヤナー

アリヤリヤ アリヤコレワイセーノ コノナンデモセー



荒川に入る隠居神輿



ひよつとこ踊り

(6) ひよつとこ踊りと川入り

二回目の五班神酒所では、余興として、どろいんきよの最中に、垂直に立てた隠居神輿のヤカタの上に置いた板の上で、ひよつとこ踊りが行われる。なお、十班の神酒所でもひよつとこ踊りが披露される。囃子は「ニンバ（ひよつとこ）」が演奏され、下宿の囃子連が手伝うことになっている。

また、どろいんきよの途中に、荒川への川入りがある。本来の祭りの行事ではないが、復活以降の恒例行事となっている。五班で行われる二回目のどろいんきよの最中、隠居神輿を逆さまにして担ぎ、神酒所を出て、川岸に向かう。隠居神輿を荒川に投げ入れ、若い衆もそれにしたがって川に飛び込む。少し下流に流されてから岸に上がり、また逆さまに隠居神輿を担いで神酒所に戻ると、どろいんきよが再開される。神輿と隠居神輿は、進んだ道に戻らないことが基本であるが、隠居神輿を逆さまに担ぐことで、本来の巡行ではないことになり、一度進んだ道に戻ることができる。



囃子屋台



山車に乗った役者

(7) 山車

二班の神酒所では、どろいんきょの途中、山車の引廻しがある。川に入る際と同様に、隠居神輿を逆さまにして担ぎ出し、旧開平橋付近まで運ぶ。模様替えが行われて山車になった隠居神輿には、芝居の主人公にふんした若い衆が乗り、その山車に縄を付けて引く。この際、若い衆に混じり見学者も一緒になって引いていく。この時、囃子連は囃子屋台で囃子を演奏する。囃子は「ニンバ（ひよつとこ）」や「カマクラ（鎌倉）」が演奏される。囃子屋台では、子ども囃子が演奏に参加するため「ヤタイ（屋台）」は演奏されない。八枝神社の前まで来ると、山車を鳥居に向かって、手締めをする。かつては、一班の神酒所の時に山車の引廻しを行っていたため、一班の神酒所まで戻っていたが、現在では橘神社の前までになっている。橘神社まで引いたら、隠居神輿を元の姿に戻す。再び逆さまにして担ぎ出して二班の神酒所に戻り、どろいんきょの再開となる。これも川に入る際と同様に、本来の巡行ではないことを意味し、一度進んだ道に戻ることができる。また、山車の引廻しの前には、上宿地区の女性たちが中心となった流し踊りが行われる。



隠居神輿が神楽殿に戻る



神輿が神社に戻る

(8) お山納め

神輿や隠居神輿が渡御を終え、八枝神社に帰り、お飯屋（神楽殿）に戻ることを「お山納め」という。最後の神酒所を出ると、一行は八枝神社に向かう。神輿や隠居神輿はお山出しの際、境内から出る前に揉んで、なかなか鳥居の外に出ないが、お山納めの時は、なかなか境内に入らないものである。神輿、隠居神輿の順に鳥居をくぐり境内に入る。まず神楽殿に神輿が納められ、次に隠居神輿が納められる。なお、お山納めの際の囃子は「ヤタイ（屋台）」である。当番が持っていた幣束（大幣）は、神輿・隠居神輿のそれぞれに立て掛けられる。参加者等一同は、神楽殿前に集合し、神社総代の挨拶、若集頭の挨拶の後に手締めをして、祭りは終了する。



本部片付け



提灯片付け



隠居神輿を水洗いする

(1) 後片付け

第五章 翌日 後片付け

祭り翌日の朝に、区長や若衆頭などの実行委員会を中心に町内の有志が集まり、祭りの後片付けをする。祭り本部や接待小屋を解体し、お飯屋として使用された神楽殿などの片付け・清掃をする。また、町内に張り巡らされた提灯・電線を回収し、神酒所を元の状態に戻す。



結び目を切る



結び目を手渡す



結び目を玄関に飾る

(2) 神輿洗いと結び目

後片付けと同じ日に、隠居神輿を主に神輿縛りを行った人たちで解体して、洗う。かつては荒川の河原で洗ったので、この行事のことを「神輿洗い」と呼んでいた。ヤカタとトンボをつないでいる縄を、結び目が残るようにして切る。切った結び目は家の入口に付けておくと魔よけの効果があるという。四つのうち二つは当番に、もう二つは神輿縛りをする人の裁量で希望者に渡している。御幣は拝殿に納め、隠居神輿は解体しながら水洗いをする。

(3) 反省会

祭りの後片付けが終わると、以前は南、上宿、下宿、新田が地区ごとに天王講を開いていたが、現在上宿では天王講は開かず、八月に反省会を開いている。若衆頭からの会計報告や意見交換を行い、次年度以降の夏祭りに備える。

参考文献

関 孝夫 「第三章 祭りと行事 五 天王様（一）平方のどろいんきよ」

『上尾市史 第一〇巻 別編三 民俗』

上尾市教育委員会 平成一四年

『上尾市文化財調査報告 第四四集 平方のどろいんきよ』

上尾市教育委員会 平成七年

『上尾市文化財調査報告 第三五集 上尾の民俗Ⅰ』

上尾市教育委員会 平成元年

平成二六年度 文化庁文化芸術振興費補助金 文化遺産を活かした地域活性化事業

平方上宿の祇園祭 どろいんきょ

企画制作 上尾市無形民俗文化財活用活性化実行委員会

制作協力 上尾市教育委員会

撮影協力 平方どろいんきょ保存会 上宿祭礼実行委員会 八枝神社 武州平方箕輪

囃子連 平方上宿地区の皆さん 平方南地区の皆さん 平方下宿地区の皆

さん 平方新田地区の皆さん

映像記録 「平方上宿の祇園祭 どろいんきょ」

製作 株式会社CNインターボイス

演出 中野 奈津希

演出助手 小林 楓

撮影 平尾 恭一 中井 正義 小林 雅紀 藤山 耕平

技術 小野 誠 岸本 宗司

CG 糸川 裕哉 村嶋 元子

音楽 友田 敏貴

録音 森 洋一

ナレーション 窪田 等

制作 宮野 隆博

解説冊子 「平方上宿の祇園祭 どろいんきょ」

執筆 関 孝夫 佐藤 周平（上尾市教育委員会）

監修・製作指導 関 孝夫 内田 幸彦（埼玉県立歴史と民俗の博物館）

平成二六年度 文化庁文化芸術振興費補助金 文化遺産を活かした地域活性化事業

平方上宿の祇園祭 どろいんきよ

平成二七年 三月三十一日

発行 上尾市無形民俗文化財活用活性化実行委員会

印刷 朝日印刷工業株式会社

制作 株式会社C N インターボイス

